

新年所感

靜岡 島 崎

新年の所感と云へば、先づ松の内の所感であらう、今年は講習會の催の爲、私に取つて曾て例なき多忙の新年であつた。

講習會の催は、丁度去年の九月、私が初めて比奈地様を、鷹匠町の寓居に訪づれた時に、芽を出し初めた。以來各地に往復通信の結果、ほゞ見込みが付いたので、大下先生とも相談が出来て、開く事に決定した。場所も静岡と決めて、會場やら旅宿やらの準備に取りかゝつた。其間幾多の蹉跌はあつたが、兎に角大體の用意が出来たので、確か十一月だつたと覺えて居るが、印刷物を諸君に送つて、頒布勧誘の勞を御願ひした。其結果がなか／＼盛んなもので、大晦日に六十何名とか云つた。明けて元日早朝から、先生を清水に訪づれ、日暮れて歸り、二日は會場の準備を爲し、先生を迎へ等して暮れ、愈開會となつた。其時の喜ば、到底拙き筆には述べ難い。それで、講習會の事が、全く結了して、我身に返つたのは、九日である、而も非常に忙しい講習で、先生も御疲れの御様子であつた。斯んな風で、實に目の廻る様な、正月をした。それでも門松は並んで居る、追羽子の音も聞えれば、ニカルタの聲も耳に入る、併し講習會が、例のオトツサン等の、御盡力で、先づ成功を以て終つたので、喜びの感に堪へなかつた。

扱一方『みづゑ』を顧れば、昨年の七月以來、一段の發展をして、目出度越年の喜を謠ふ次第、指折り數ふれば、今年取つて七歳、そろ／＼尋常の先生様の御手を煩はさにやならん、そし

て大に勉強せにやならん。

私は大下、永地、赤城、御三方に、御禮を申し上げ、はる／＼參會せられた諸君の勞を謝し、講習會の成功を喜び、之を祝ふに付けても、『みづゑ』の新面目を愛し、此一年の活動、尙將來の發展を、諸君と共に祈る者である。未だ講習會に付いては、書き度事も澤山あるが、餘り長くなると、文學上の何んとかは知らないが、感じが悪くなるから、此所らで止して置かう、おさらば。

スケッチ行

臺仙片平町

曉 夢 生

二日は正月には珍らしい程暖かで風のない日なので、友人R君と描初めと洒落かけてスケッチに出掛けた、廣瀬川に架つてる長い越路橋を渡る、橋の上から碧く澄んだ水、上流下流の山々、インデゴの森などを眺めると、ほんとに心が清々する、對岸を川に沿ふて上流の方に五六丁も行くと、此處は評定河原と云ふ、大分いい名前なんだ、僕はとある岩の上に畫架を据えた、川や河原を前景として對岸のボブラ樹の二三本ある牧場を寫生しはじめた、二人は無言のまま二時間許り突つき廻して、やっとハッ切の稽古繪一枚を得た、短かい冬の日の、太陽はまもなく落ちた、思ひ出したやうに寒い寒い北山嵐しが、颯々と身を斬るやうに吹いた。

又橋を通つた時分に、蒸氣殺菌所の汽笛が、けたたましく、乾いた夕方の空氣に、響いた。